

第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成26年9月26日(金)6校時
児 童 5年 男18名 女20名 計38名
指導者 日影館 亨

1 単元名 グラフや表を引用して意見文を書こう

教材名 天気を予想する

グラフや表を引用して書こう

2 単元を貫く言語活動の特徴

本単元を通して児童には、「目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりする」(読ウ)力を確実に身に付けさせるとともに、「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む」(読カ)力を育成したい。また、読むことの指導事項ウ及びカで身に付けたことをふまえて、「事実と感想、意見などと区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする」(書ウ)力及び「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く」(書エ)力を育成したい。そのために、「調べ学習を通して収集したグラフや表を効果的に用いて、自分の考えを伝える意見文を書く」という言語活動を、単元を貫いて位置付けた。

意見文とは、ある物事や事態・見解などについての考えを、根拠を明確にして、論理的に述べ表した文章である。自分の考えを分かりやすく説得力をもって読み手に伝える文章を書くためには、調べ学習を通して収集したグラフや図表を効果的に用いることも必要である。また、理由や根拠を明確にしながら自分の考えを説得力をもって記述する力、グラフや表から読み取れる事柄を言葉で表現する力は、高学年の教科学習において重視されるべき言語力であり、ここで学習したことは他教科及び他領域において活用することができる。

3 単元について

(1) 児童について

学級の児童はこれまでに、説明の仕方について4年「アップとルーズで伝える」において、写真と文章を対応させて読み、説明の工夫について「仕事リーフレットを作ろう」という言語活動を通して学んでいる。また、5年「見立てる」「生き物は円柱形」において、要旨をとらえて自分の考えを明確にしながら読むことについて、意見交流会を通して学んでいる。グラフや表を使った学習は、4年「読書生活について考えよう」において、アンケートを取って調査し、報告する文章を書く経験をしている。これらの学習を通して、児童は、文章構成や説明の仕方の工夫、そして要旨をとらえることができるようになってきている。しかし個々に見ていくと個人差が大きく、学習した内容を生かしたり、考えを広げたりする力は十分とはいえない。そこで本単元では、二つの領域を複合的に扱い、「天気を予想する」では、文章構成、図表・グラフ・写真の意図を考え、説明の工夫を捉えさせ、それらをふまえて「グラフや表を引用して書こう」で、グラフや表を使って自分の考えを裏付けながら、意見を述べる文章を書き、単元の目標に迫るようにしたい。

(2) 単元について

第一教材「天気を予想する」は、児童にとって身近でありながら、その仕組みはよく知られていない天気予報を題材としている。本教材は、最初に文章全体を覆う大きな問いは存在せず、一つの問いに対する答えの中から新たな問いが生まれるという関連性をもって、問いと答えが三回繰り返される構成となっている。読み手の思考の流れに沿いながら、自分の主張へと徐々に論の方向性を近づけるような展開となっている。また、図表・グラフ・写真などの非連続型テキストを効果的に用いて説明が展開され、読み手の納得を促すように意図されている。第二教材「グラフや表を引用して書こう」は、「天気を予想する」での学習を踏まえながら、調べ学習を通して収集したグラフや表を効果的に用いて自分の考えを分かりやすく説得力をもって読み手に伝える文章を書く活動が設定されている。

第二教材「グラフを引用して書こう」については、意見文のイメージをもたせるために第2次で扱い、第3

次では意見を述べる文章を書いたり、書いたものを交流したりすることを中心に学習する。このように第二教材を複合的に扱うことにより、書く活動の時間を確保することができる。

構成や資料の使い方、表現などの筆者の説明の工夫について読み取り、目的や意図に応じて収集した事柄を整理し、引用したりグラフや表を用いたりするなど、書き方を工夫して自分の考えを分かりやすく書く本学習に適した教材であると思われる。

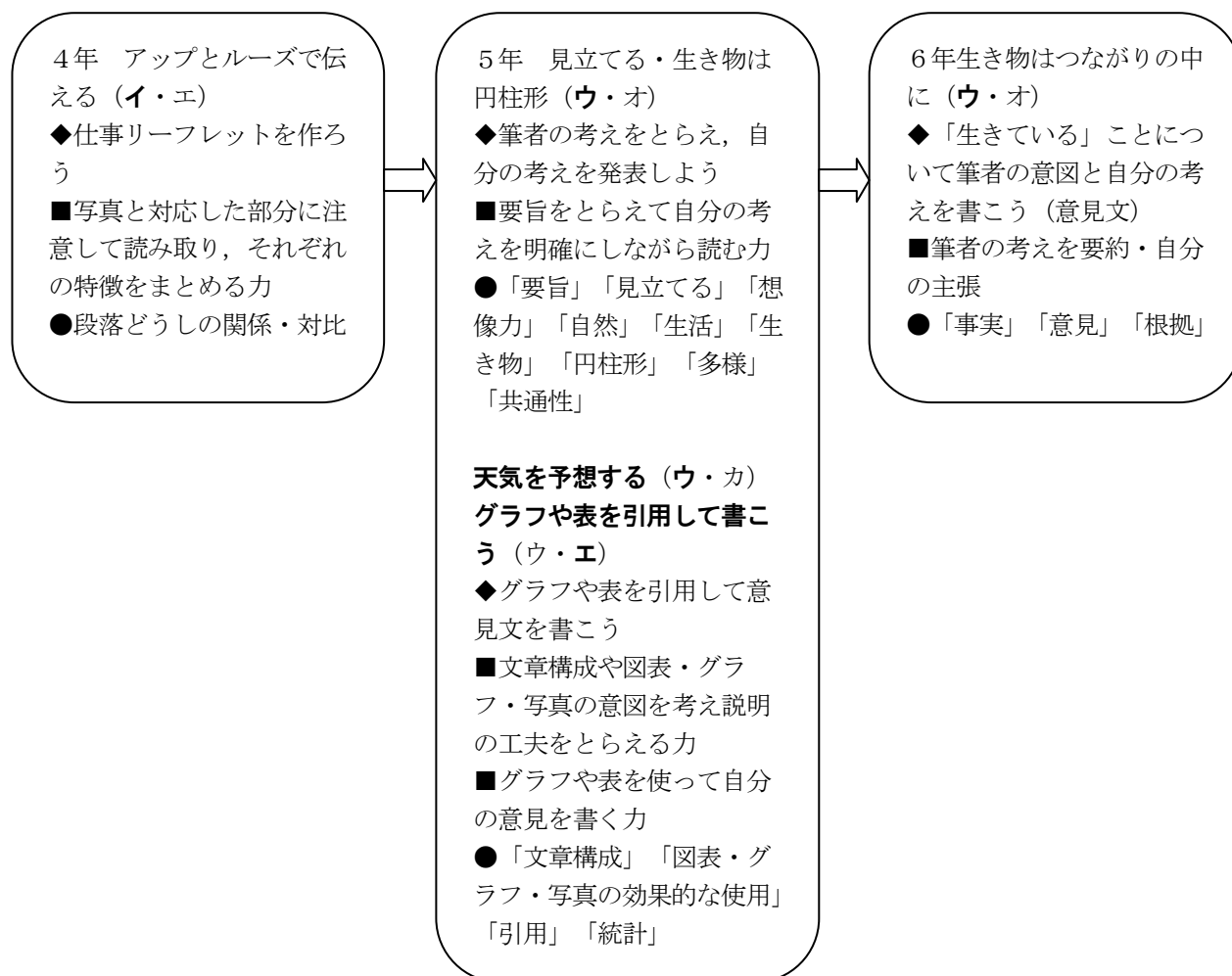
(3) 指導にあたって

本教材の指導にあたって、次のような点に留意していきたい。

- ① フィードバックの時間を活用し、グラフや表の読み方について確認を行い、データの解釈に必要な基本的な技能のレディネスをそろえる。
- ② モデル文を提示し意見文についての具体的なイメージをもたせると共に、単元の学習計画を作成しゴールを明確にした学習を意識させる。
- ③ 教材文のどの部分が図表やグラフ、写真と関連しているかサイドラインを引くなどして考えさせ、それらを用いるよさについてとらえることができるようにする。
- ④ 自分の考えをペアまたはグループでの交流する場面を設定し、自分の考えを広げたり深めたりするようにさせる。
- ⑤ 他教科の教科書や資料集、図書館の本やインターネットなどから、自分が話題とすることに関連のある統計資料を家庭学習や課外の時間を活用して探させる。第3次の学習に大きくかかわる活動であるため、適切な統計資料を見付けることができるように適宜アドバイスをを行うようにする。

(4) 本単元にかかわる言語活動系統表

◆単元名 ■付けたい力（言語活動の構成要素、読みの観点） ●大切な用語・使わせたい言葉



4 単元の学習指導目標及び評価規準

	学習指導目標	評価規準
関意態	○題材や筆者の考え、文章の書かれ方に興味をもって読み、非連続型テキストを適切に用いて意見文を書こうとする。	○題材や筆者の考え、文章の書かれ方に興味をもって読み、非連続型テキストを適切に用いて意見文を書こうとしている。
能力	◎文章構成に着目し、筆者の説明の工夫を読むことができる。(読む) ◎図表やグラフなどを効果的に用いて、自分の考えが伝わるように意見文を書くことができる。(書エ)	◎文章構成に着目し、資料の使い方や表現など説明の工夫を読み取っている。 ◎図表やグラフなどを効果的に用いて、自分の考えが伝わるように意見文を書いている。
知理技	○意見文の構成要素を理解することができる。(伝言イー(キ))	○自分の主張・根拠・提言・図表やグラフから読み取れることといった意見文の構成要素を理解している。

5 単元の指導計画と評価規準 10時間

	主な学習活動	ゴールへの並行活動	評価規準
第一次 (2)	1 学習課題を設定し、単元の見通しをもつ。 モデル文を提示し意見文についての具体的なイメージをもつ。 単元の学習課題を設定する。 学習計画をたてる。 2 「くらしやすさ」「くらしにくさ」について自分の考えを整理する。	他教科の教科書や資料集、図書館の本やインターネットなどから、自分が話題とすることに関連のある統計資料を探す。	【関】学習のゴールとして、くらしについての意見文を書くということを知り、「くらしやすさ」「くらしにくさ」について自分の考えを整理しようとしている。(ノート・発表)
第二次 (3)	3,4 教科書P140を読み、意見文の文章構成をとらえる。 ①「天気を予想する」全文を読み、話題提示と結論を見つけ段落構成を確認する。 ② 要旨をとらえる。 ③三つの問いと答えの関連を読み取り、文章全体の構成を把握し文章構成図を作る。 ④それぞれの段落の内容を把握し、図表・グラフと対応している段落について確認する。 5 説明の仕方の工夫として、図表・グラフ・写真を用いた意図やその効果について考える。【本時】 図表・グラフ・写真と本文を結び付けて関係を確かめる。	↓	【知理技】【読】意見文の構成要素を理解し、文章構成をとらえている。(ノート・発表) 【読】三つの問いとそれに対する答えを読み取り、文章構成図を作っている。(ノート) 【読】最終段落に着目し、要旨をまとめている。(ノート) 【読】図表・グラフ・写真・数字の使い方について、筆者の意図やその効果について気付いている。(シート・発表)
第三次 (5)	6,7 用意した統計資料を読み取る。 用意した統計資料が自分の考えを裏付けるものになっているか確認し、内容を整理し、構成を考える。 8,9 統計資料を効果的に用いながら、意見文を書く。 自分の考えを裏付ける統計資料を用いて、意見を述べる文章を書く。 10 書いた意見文を読み合い、意見や感想を交流する。 意見、理由、資料の視点から意見文を読み合い、お互いに意見や感想を交流する。		【書】用意した統計資料から、自分の考えを裏付ける内容を整理している。(シート) 【書】収集した統計資料を効果的に用いて意見文を書いている。(シート) 【書】他者の意見文を読んで、優れた点を具体的に指摘している。(ノート・発表)

6 本時の指導

(1) 本時の目標

図表・グラフ・写真の意図と効果に着目し、筆書の説明の仕方の工夫を読み取ることができる。(読む)

(2) 授業改善のポイント

単元のゴールに向け、教材文と資料の関連についてサイドラインを引いて明確にし、説明の仕方や効果について自分の考えをもつようにさせる。

①考えをつなぐ(目的を明確にし、自分の学びや友達との学びのかかわりを国語の用語や語彙を活用して表現し合う活動の工夫)

資料を用いる効果について各自が考えたことを、友達と互いに交流し確認し合う。その際、自分の考えがまとまらない資料に対しては、友達の考えを参考にし、互いに補うようにさせる。

②学びをつなぐ(指導事項・言語活動の系統性、学びを生かす単元計画)

単元計画を用いて文章構成図を振り返り、各段落と図表・グラフとの対応について確認し本時に向けての課題を明確にする。

(3) 展開

段階	学習内容と主な学習活動	指導上の留意点 【評価の観点及び評価の方法】
つかむ	1 前時までの学習を振り返る。 文章全体の構成について確認する。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> どうして筆者は、図表・グラフ・写真を用いたのだろう。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ②学びをつなぐ 単元計画を用いて文章構成図を振り返り、各段落と図表・グラフとの対応について確認し本時に向けての課題を明確にする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールである意見文を書くことにかかわる大事な活動になることをおさえる。
3分		
ふかめる	3 図表・グラフ・写真を用いた意図やその効果について考える。 <ul style="list-style-type: none"> 表から分かることを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・的中率を数値で表している。 ・何年から何年までの的中率が分かる。 ・的中率が上がっている。 </div> 表のことに書いてある段落を見付け、関連のある文章にサイドラインを引く。 表がある場合とない場合の効果について全体で考え、事実と意見を明確にさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・具体的な数字があるので分かりやすい。 ・信用できる。 ・確かめながら読むことができる。 </div> 写真・図・グラフについて書いてある段落を見付け、関連のある文章にサイドラインを引き、それらを用いる効果について個人で考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;">思考ポイント</div> 	<ul style="list-style-type: none"> 図表やグラフ、写真それぞれと文章の関連を意識しながら読むようにさせる。
	4 資料を用いる効果について友達とお互いに交流し合う。(グループ→全体)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ①考えをつなぐ 教材文と資料の関連についてサイドラインを引いて明確にし、説明の仕方や効果について自分の考えをもつようにさせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ①考えをつなぐ 資料を用いる効果についての自分の考えが適切であるか、友達とお互いに確認し、不十分な点については、友達と補うようにさせる。 </div>

37分	<p>・写真，図—どのようなものなのか具体的にイメージできる。</p> <p>・グラフ—変化や差が分かりやすい。信用できる。</p> <p>5 筆者が様々な資料を用いた意図について話し合う。</p> <p>例： 文章だけでは分かりにくいことを，グラフや表を使うことで読み手に具体的にイメージしやすくするため。 実際の資料を見せることで根拠をはっきりさせ説得力をもたせるため。</p> <p>6 学習のまとめをする。 教科書136ページの「たいせつ」を読み，本時のまとめをする。</p> <p>図表やグラフ，写真を用いることで筆者の示したい事実がいつそう読者に理解されやすくなり，説得力のある文章を書くことができる。</p>	<p>【読】図表・グラフ・写真・数字の使い方について，筆者の意図やその効果について気付くことができる。（シート・発表）</p> <p>・図表やグラフ，写真を用いる効果を確認し，それらは，筆者が示したい事実をよりいつそう読者に理解させるための手立てであることに気付かせる。</p>
まとめ 5分	<p>7 学習を振り返る</p> <p>8 次時の予告 用意した資料が自分の考えを裏付けるものになっているか確認し，内容を整理する。</p>	<p>【振り返りの観点】</p> <p>・気付いたこと。</p> <p>・自分の意見文に生かせそうなこと。</p>

(4) 評価規準

評価の方法	シート・発表
評価規準	【読む】図表・グラフ・写真と文章との関連をとらえ，それぞれの効果について自分の考えをシートにまとめている。
努力を要する児童への手立て	図表・グラフ・写真などの資料がある場合とない場合を比較させ，資料の効果に気付かせる。

(5) 板書計画

<p>図表やグラフ，写真を用いることで筆者の示したい事実がいつそう読者に理解されやすくなり，説得力のある文章を書くことができる。</p>	<p>・イメージしやすい。</p> <p>・根拠がはっきりする。</p> <p>・説得力をもたせる。</p>	<p>グラフ</p> <p>・変化や差が分かりやすい。</p> <p>・信用できる。</p>	<p>写真</p> <p>・どのようなものなのか具体的にイメージできる。</p>	<p>表と関連する部分の文章</p>	<p>表</p> <p>・具体的な数字があるので分かりやすい。</p> <p>・信用できる。</p> <p>・確かめながら読むことができる。</p>	<p>どうして筆者は，図表・グラフ・写真を用いたのだろうか。</p>	<p>グラフや表を引用して意見文を書く 天氣を予想する</p>
--	--	--	--	--------------------	--	------------------------------------	-------------------------------------